

第24回 新プラトン主義協会大会

日時 2017年9月23日(土)・24日(日)

場所 東京大学 本郷キャンパス 法文2号館2番大教室

プログラム

第一日目 9月23日(土)

理事会・編集委員会 (12:00~12:50)

開会・会長挨拶 (12:55~13:00)

研究発表① (13:00~13:45)

ドゥルーズ哲学とプロティノス：超越と内在を巡って

内藤 慧 (東京大学)

研究発表② (13:45~14:30)

創造と流出 —近代ドイツ哲学において「流出 (emanatio)」はどのように理解されたのか—

津田栞里 (一橋大学)

総会 (14:30~15:00)

研究発表③ (15:10~15:55)

プロティノス哲学における美の基礎づけ —徳(ἀρετή)と浄化(κάθαρσις)の関係に着目して—

豊田泰淳 (慶應義塾大学)

プロティノス・コロキウム (15:55~16:40)

「摂理について」(III2-III3)

植田かおり (神田外語大学)

講演 (16:50~17:50)

ギリシアの古代哲学最後の人、プロティノス

左近司祥子 (学習院大学名誉教授)

懇親会 (18:00~)

第二日目 9月24日(日)

研究発表④ (10:00~10:45)

アウグスティヌス『三位一体論』における自己知の内実

—プロティノス『エンネアデス』における「知性の自己知」との比較にもとづいて

小沢隆之 (慶應義塾大学)

研究発表⑤ (10:45~11:30)

「同じ」から「等しい」へ —クザーヌスの一性形而上学におけるキリスト論の展開—

徳田安津樹 (東京大学)

研究発表⑥ (11:40~12:25)

初期ショーペンハウアー哲学におけるネオプラトニズム

—プロティノスからの影響を中心に

堤田泰成 (上智大学)

(昼食休憩 12:25～13:30)

研究発表⑦ (13:30～14:15)

現代におけるキリスト教的プラトン主義の一展開
——ジョン・ミルバンクの「神への参与」論の検討——

原田健二郎 (慶應義塾大学)

研究発表⑧ (14:15～15:00)

フライベルクのディートリヒにおける構成論的知性論の構造

山崎達也 (創価大学)

シンポジウム (15:10～17:30)

カントと「一と多」

司会

樋笠勝士 (岡山県立大学)

コメンテーター

福谷 茂 (京都大学)

提題 形而上学と心理学—統一原理の性格をめぐって

大橋容一郎 (上智大学)

提題 カント『判断力批判』における範例性をめぐって
——範例的必然性と範例的独創性——

小田部胤久 (東京大学)

提題 プロティノスにおける一・多関係の諸相について

山口義久 (宝塚大学)

閉会・会長挨拶 (17:30)